



ウラン濃縮技術の開発

1. 研究開発

新素材を用いた遠心機開発

日本原燃株式会社及び電力10社との共同研究として実施している高度化機開発は、分離流動試験及び遠心機材料の腐食試験を行った。

また、将来の遠心分離機の開発に必要な基礎的・基盤的技術開発として実施している遠心法先導的技術開発は、超高性能遠心機の回転性能試験及び分離流動試験を行った。

分子レーザ法濃縮技術の開発

分離性能の最適化を目指した工学試験及び成果の取りまとめを継続した。

2. 遠心機処理技術開発

使用済遠心分離機の機微情報消滅及び放射性廃棄物の低減化を目的に実施している遠心機処理技術開発は、技術開発に必要な処理装置の設計を平成7年11月から開始し、平成11年度の試験開始を目途に設備・機器の設計、製作及び据え付けを継続した。

また、放射性廃棄物低減化のための基礎試験を継続した。

3. 原型プラント

第一運転単位（DOP-1）、第二運転単位（DOP-2）とも平成10年3月に当初の役務契約に基づく役務濃縮運転を終了し、遠心分離機をコールド運転としてプラント機器のメンテナンスを行った。平成10年7月、3年間の延長運転の役務契約に基づき、天然ウラン原料を使用した役務濃縮運転を開始した。

4. 滞留ウラン回収技術開発

濃縮機器に付着したウランやプラント内に滞留したウランを回収する目的で実施している滞留ウラン回収技術開発は、平成10年4月から装置の設計を開始し、平成12年度からの原型プラントDOP-2を使用した試験開始を目途に設計を継続した。

また、濃縮工学施設において、遠心分離機試験装置を使用した基礎試験を継続した。

東海：環境保全・研究開発センター
環境保全部
人形：施設管理部